

経理研究所所長就任に当たって

中央大学経理研究所所長
上野 清 貴

平成 26 年 11 月 1 日より、中央大学経理研究所所長に就任いたしました上野です。経理研究所は 1950 年 4 月より大学の正式な付属機関となり、これまで多くの輝かしい実績をあげてきた伝統ある機関です。私は 1950 年生まれですので、経理研究所は私の人生とともに歩んできたことになり、運命の不思議さを感じます。

経理研究所はご承知のように、3つの柱で運営しております。すなわち、(1)「研究会」および「専門講座」の運営、(2)「簿記会計講座」および「公認会計士講座」の運営、および(3)機関誌の刊行・企画です。

「研究会」および「専門講座」の運営では、各領域の第一線で活躍する専門家を講師として迎え、社会人を対象として、研究会「A&B Forum (Accounting and Business Forum)」、社会人専門講座「財務会計講座」、「管理会計講座」、「税務会計講座」を開講しています。

「簿記会計講座」および「公認会計士講座」の運営では、日商簿記検定 1 級・2 級・3 級を目指す「簿記会計講座」と公認会計士試験合格を目指す「公認会計士講座」を開講しています。これらは経理研究所出身の現役公認会計士講師陣によって運営されています。

機関誌の刊行・企画では、会計の専門誌である

『経理研究』を刊行しています。『経理研究』は、会計研究者と会計実務家が互いの立場から会計を論じ、諸問題の論議を交わす意見交流の場を提供するものとして発行され、その研究分野も「財務会計」、「管理会計」、「税務会計」、「監査」と多岐にわたっています。

私の任務はこれら 3 本柱の運営をさらに充実・発展させることですが、とりわけ、「公認会計士講座」の運営を充実させ、公認会計士を多数輩出することであると思っております。中央大学の興亡は、公認会計士の合格者数と司法試験の合格者数にかかっているといっても過言ではないからです。

私が中央大学の学生であった頃は、公認会計士の合格者数と司法試験の合格者数は中央大学が断トツの 1 位で他を圧倒しておりました。現在、公認会計士の合格者数で、中央大学は慶応大学、早稲田大学に続く第 3 位になっています。これを挽回することが私の任務だと思っています。幸い、経理研究所の専任講師陣は、「大学別合格者全国 1 位事業計画」を作成し、その目標に向かって日々邁進しております。専任講師を中心とした講師陣は多大の熱意をもってこれに取り組んでおります。

経理研究所はこれだけではなく、さらに現代社

会に最も適合した公認会計士の輩出を目指しています。現代社会はグローバル社会であり、会計も国際化しています。そして、会計の国際化における職業会計人像として、次のことが要求されます（金融審議会公認会計士制度部会「専門職大学院における会計教育と公認会計士試験制度との連携について」平成15年より）。

- (1) 公認会計士については、量的に拡大するとともに質的な向上も求められている監査証明業務の担い手として、拡大・多様化している監査証明業務以外の担い手として、さらには、企業や公的部門などにおける専門的な実務の担い手として、経済社会における重要な役割を担うことが一層求められている。
- (2) こうしたことから、公認会計士は、複雑化・多様化・国際化している今日の経済社会において、不断の自己研鑽による専門的知識の習得、高い倫理観と独立性の保持により、監査と会計の専門家としての公益上の使命と責務を果たすべきであり、公認会計士試験を通じ、また、資格取得時はもちろんのこと、資格取得後においても、専門的職業人材としての不断の自己研鑽が求められている。

- (3) 同時に、公認会計士を取り巻く環境の変化に伴い、公認会計士に対しては、より高い資質・職業倫理が期待されており、深い専門的能力に加えて、幅広い見識、思考能力、判断能力、国際的視野と語学力、指導力などが一層求められている。

このことから、将来の職業会計人像として望まれるのはまず、会計のエキスパートかつゼネラリストとして、複雑化・多様化・国際化する経済社会に貢献しうる人材ということになります。そして、職業会計人の要件として、①深い専門的知識、②高い倫理観と独立性、③幅広い見識、④思考能力と判断能力、⑤国際的視野と語学力、⑥指導力、および⑦不断の自己研鑽が必要となります。

経理研究所がこのような能力をもつ人材を多数輩出し、質量とも日本一の機関にすることが私の任務だと思っています。そしてこれが、太田哲三先生から始まる伝統ある経理研究所の所長としての任務であると自覚しております。

ただ、経理研究所の運営は順風満帆ではありません。財政状況をはじめ、いくつかの問題を抱えています。皆様のご協力をよろしく願いたいと思います。

証券取引等監視委員会の6年5か月を振り返って

前証券取引等監視委員会委員
公認会計士

福田 真也



1 監視委員会の業務と任期中の実績等

一昨年（2019年）の12月、証券取引等監視委員会（以下「監視委員会」という）委員を任期満了により退任しました。私の後任には園マリ公認会計士（新日本監査法人出身）が就任したので、前任の野田晃子公認会計士から3代公認会計士が委員に就任することになりました。有価証券報告書等の虚偽記載を発見・摘発等も業務としている監視委員会の委員に公認会計士が就任することは意義あることと

思われます。

監視委員会は、情報の受付、市場の監視・審査等を行い（市場分析審査課が担当）、金商法違反等の犯則事件の刑事告発（特別調査課が担当）、開示検査や不正取引調査の結果による課徴金の支払い命令の勧告（開示検査課、取引調査課が担当）や有価証券報告書等の訂正命令の勧告（開示検査課が担当）、金融商品取引業者等の証券検査（証券検査課が担当）を主たる業務としています。

任期中には、プロデュース、エフオーアイ、オリンパス、IHI等の虚偽記載に対する刑事告発や課徴金支払い命令の勧告、公認会計士、元経済産業省審議官、国内外の機関投資家等のインサイダー取引違反に対する刑事告発や課徴金支払い命令の勧告、AIJ投資顧問、MRIインターナショナル、TIBOR、LIBOR等の不正操作、不適格な格付け等金融商品取引業者に対する刑事告発や業務停止等の行政処分の勧告を行いました。

これら刑事告発や課徴金支払い命令の勧告や金融商品取引業者への行政処分の勧告により金融商品取引法やその取扱いの問題点が明らかとなり、毎年のように金融商品取引法等の改正が行われました。運用業者が行う他人の計算によるインサイダー取引に対する課徴金額の増額や、AIJ投資顧問の事案を踏まえた資産運用規制の見直し、ファンド販売業者への規制の見直し、インサイダー取引に係る情報伝達・取引推奨行為の課徴金対象への追加等改正事項は数えきれません。なお、課徴金に係る調査の権限も強化され、参考人の出頭命令や、事件関係者に対する物件提出命令等が追加されています。

2 監視委員会の人事の特色と公認会計士の活躍

監視委員会は、国会同意人事である委員長、委員（2名）の構成もそうではありますが、監視委員会事務局の構成メンバーも寄せ集めであります。委員長は、最近数期は検事出身者であります。委員は、公認会計士、マスコミ出身者、証券会社出身者、弁護士と多様な経歴の者から選任されています。

監視委員会事務局は、各種の国家公務員試験合格者のほか、検事、判事・判事補、公認会計士、弁護士、不動産鑑定士、システム専門家、証券取引所からの出向者、証券会社中途退職者、格付け専門家等が寄り集まって事務局を構成しています。

この寄せ集めの事務局構成員の大部分が2～3年の短期間に移動するため、監視委員会の行う検

査や調査等のレベルアップを図るのは極めて困難となっています。

監査委員会事務局には約20名の公認会計士が勤務しています。監視委員会事務局の定員は約400名であり定員の5%に相当する公認会計士がいることとなります（なお、金融庁には総務企画局企業開示課、検査局にそれぞれ数名の公認会計士が在籍し、公認会計士・監査審査会事務局にも約20名の公認会計士が在籍しており監視委員会と合わせ合計で約50名となります）。勤務している公認会計士の大部分は「任期付採用」であります。任期付採用は、公務に有用な専門的知識経験等を有する者を、任期を定めて採用し、専門性等にふさわしい給与を支給する制度であり、人事院の承認が必要です。公認会計士の場合、実務経験が一定期間あれば承認されるようです。専門性にふさわしい給与とされていますが、実際は大手監査法人の給与の水準には届かない水準となっています。通常の任期は2年であり最長でも5年とされています。任期終了後、元の監査法人に戻る人が大部分です。約20名の公認会計士はほとんど特別調査課と開示検査課に配属され虚偽記載の調査に当たっていますが、証券検査課、市場分析審査課に在籍している公認会計士もいます。

特別調査課には強制調査の権限があり、開示検査課には強制調査権限はありませんが事件関係者や参考人に対し質問や報告の入手ができ、関係箇所への立入検査も可能となっており、銀行調査や反面調査もできない公認会計士の行う監査との違いを実感でき、また、虚偽記載の手口等も目の当たりにできるため、その後の公認会計士監査の参考になると言われています。

公認会計士、特に大手監査法人に勤務する公認会計士が、通常の監査以外の実務経験を積む手段として、任期付採用で監視委員会等に勤務し会計監査を別な視点から見ることも有用と考えられ、積極的に任期付採用の公募に応じることを期待しています。

川島正夫先生の思い出



故 川島正夫先生

S45 年卒業
公認会計士

黒田 克 司

最後にお目にかかったのがいつだったのか、多分、小金井カントリーだったように思いますが、プレー後、カラオケに行ったところ、お店の女将が買い物で不在らしく、結局、歌わずにどこかで解散したような記憶があります。ついこの前のことのような気もしますが、その後、年に数回のその会のゴルフが中止になったりしてそれとなく気にはしておりましたが、ご快復のお話も耳に入りホットしておりましたところ、平成26年6月、私達の誇りとする偉大な先輩、元当会会長川島正夫先生の突然の訃報に接することとなりました。80歳まで仕事してあとは余生を楽しむぞと仰っていましたのにとても残念な想いです。

先生が上場会社ピー・シー・エーの創業者でもあり、また、永らく協会本部及び東京会の役員としてご活躍されましたことは改めて申しあげるまでもありませんが、そのご功績に心から敬意を表します。また、先生は中央大学OBとしても母校に大きなご貢献をされるとともに学会会としての当公認会計士白門会におきましても会長の重責を果たされ、我々をお導きいただきました。感謝に堪えません。当会会長時代に鹿児島と金沢で研究大会があったかと思いますが、白門会の面々を引き連れて天文館や東金沢の老舗茶屋街で美味しいお酒を楽しんだことなど忘れられない思い出です。

先生の我が公認会計士業界に対する愛情にはとても大きなものがありました。それは、川島基金3億円の創設です。藤沼本部長時代にこのお話が纏まり、当時副会長の伊藤大義さん（現

当会会長）と常務理事の私がピー・シー・エーの本社に赴き、川島先生のご意向を伺いました。若かりし頃のプライス・ウォーターハウス（PW）での監査実務のご経験等を踏まえた我が業界発展への想いや後進育成のお話など、公認会計士制度に対する大きな愛着を素朴に心温まる口調で語っていただきました。基金の交付は、協会本部長会長応接にて執り行われましたが、JICPA最大の基金であるにもかかわらず先生が淡々と会長に手交された光景は今も鮮烈に記憶しております。斧を磨いて針を作るようなご苦勞を密かに重ねたことでしょうか、まさに、大人君子の風格でありました。

初代の川島基金運営委員長は福田眞也さんですが、今も川島正夫先生のご意向を尊重しながら基金が運営されておりますことは喜ばしい限りです。川島基金のプログラムには、29名の留学者と短期語学研修24名の奨学生がいらっしゃいますが、赤坂で壮行会を催していただいたりもしました。また、奨学生の大学訪問ツアーや卒業生で川島会を開きたいとの先生の仰せでありましたが、今となっては夢となってしまったことが悔やまれます。将来、奨学生の皆さんの我が業界への貢献によって川島先生の想いが実現することを期待しております。

突然のご逝去に言葉もありませんが、拙文にて先生の思い出を追悼の一文にさせていただきますことを皆様にお許し願いつつ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

第19回 世界会計士会議 ローマ大会報告

日本公認会計士協会常務理事（スポークスマン・広報担当）
北方 宏 樹（1985年商学部会計学科卒業）



世界会計士会議（WCOA 2014）が2014年11月10日から13日までローマで開催されました。今回は参加する機会をいただきましたので簡単に報告させていただきます。

今回の会議のテーマは「2020年のビジョン：過去から学び、未来を築く」“2020VISION：Learning from the past, Building the future”。会議全体の参加登録者は4,000人以上とのものでしたが、そのうち1,100人がナイジェリアからの参加者でした。地元イタリアからの参加者が500人であったことを考えると、相当な人数です。前回のイスタンブール会議からナイジェリアの参加者が急増したとのことでした。どうやら政府の方針で会計領域での世界的なプレゼンスを高める方向性らしいとか、世界銀行から資金が出ているとかいろいろ噂はありましたが真偽のほどは不明です。いずれにしろざっと見渡すと半分以上がアフリカからの参加者でした。分科会のセッションではナイジェリアの参加者から必ず質問があり、意気込みが感じられました。アジア勢はモンゴルの300人を筆頭に中国が多く、日本からの参加者は130人程度でした。

日本からは3名がパネリストとしてプレゼンテーションをされました。国際会計士倫理基準審議会（IESBA）の加藤厚氏、JICPAの主任研究員の関川正氏、元日銀マンでトーマツのリスク管理戦略センター長の大山剛氏です。私はそのうち大山剛氏のセッションに参加したのですが、英語のほうが日本語よりもお得意なようで、テンポの速い解説と投影されたスライドの簡潔かつ判り易さで参加者からの評価も高いものでした。

私は参加できなかったのですが、関川正氏は分科会の「非営利団体による財務報告」で、日本の

事例として、過去はボランティア活動は欧米ほど活発ではなかったが、阪神・淡路大震災でボランティア活動が大きな役割を果たしたことで民間の公益活動への関心が高まり、NPO法の制定や公益法人改革が行われたとの報告をされたとのことです。また、加藤厚氏は同じく分科会「倫理規則：行動を形成する－国際倫理規程適用上のチャレンジと向上」でスピーカーを務められました。

エクスカージョンの一環としては、本会議第一日目の夜はローマの丘の上のレストラン“Casina Valadier”でJAPAN NIGHTのディナーが開催されました。駐イタリア梅本和義大使閣下にも御同席いただき、日本からの参加者を中心に120名で美味しいイタリア料理とイタリアワインに舌鼓を打ちました。また二日目の夜はGALA DINNERと称してローマ郊外のテーマパークCINECITTA WORLDを貸し切ってエンターテインメントと食事を楽しむ企画がありました。ただ、この夜は大雨でかつトランスポーターの運営も最悪で、食事にありつけない、帰りのバスが大混乱などホテルに帰りついたのは深夜1時を廻っていました。

WCOAの日程に先立ち、11月7日に同じくローマにおいて国際会計士連盟（IFAC）の総会も開催されました。Warren Allen氏の会長の任期が終了し、新たにOlivia Kirtley氏が会長に就任しました。女性初のIFAC会長です。IFACのボードメンバー22名のうち女性は9名、女性比率は41%になります。これに対してJICPAの役員88名のうち女性は7名、8%に過ぎません。わが国ではまだまだ女性CPAの活躍の場が残されています。

話は本稿のテーマから脱線しますが、安倍内閣

は昨年「日本再興戦略」改訂 2014—未来への挑戦—を公表しています。その中で我々に特に関係するのは金融・資本市場の活性化において明記された「IFRS の任意適用企業の拡大促進」、「監査の質の向上、公認会計士資格の魅力の向上に向けた取組を促進する。」の二点と、「2020 年に指導的地位に占める女性の割合 30%」の実現です。公認会計士試験の受験者が一時期に比較して半減していることは、将来の監査制度を担う優秀な人材がわれわれの業界に入ってこないことを意味しており、早急に対策を打つ必要があります。また、現在公認会計士試験における女性合格者の割合は 2 割程度ですが、会員・準会員に占める割合

は 15%程度と決して高くはありません。

4 年後の世界会計士会議はシドニーで開催されることが閉会式で発表されました。その時にはもっと日本の存在感を高める必要があると感じるとともに、8 年後の世界会議は再び日本で開催するよう立候補するべきだと認識した次第です。また、来年はソウルでアジア太平洋会計士連盟 (CAPA) の総会が開かれます。CAPA 大阪大会の際は隣国韓国から大勢の参加者がありました。ソウル大会ではぜひ日本からも多くの方々に参加していただき、スピーカーやパネリストとしても活躍いただきたいと思います。

第 35 回日本公認会計士協会研究大会 東京大会 2014

公認会計士白門会
幹事

三宅 博人



平成 26 年 9 月 4 日 (木)、表記大会がグランドプリンスホテル新高輪において開催された。メインテーマ「未来志向型、公認会計士の創造力～高品質の先にあるチャレンジング・スピリットが時代を拓く!～」の下、時期に適ったセッションや記念講演会が催され、過去最大の約 2000 名の

参加者が集い、大盛況を博した。以下、その概要を報告する。

・研究発表

午前、午後に分かれ、パネルディスカッション (P) 8、論文発表 (論) 3 が行われた (下線・太字は筆者)。

1	我が国公認会計士は、 <u>国際倫理基準</u> を如何に実践していくべきか? (P)
2	公認会計士たる <u>監査役</u> に期待される役割 (P)
3	公認会計士による <u>中小企業支援</u> の取り組みと今後の展望 (P)
4	<u>海外</u> で活躍する公認会計士の現状と未来 (P)
5	グローバル時代における <u>リスク会計</u> の探究 (論)
6	会計監査人に求められる <u>職業的懐疑心</u> とは何か? (P)
7	<u>社外役員</u> のコーポレート・ガバナンスへの役割 (P)
8	未来を創る仕事～CFOというキャリアの <u>組織内会計士</u> たち～ (P)
9	M&Aと海外進出支援における <u>知的財産戦略</u> と専門家の役割 (P)
10	<u>税務訴訟事例</u> の研究～近年における事実認定と法解釈の傾向～ (論)
11	<u>税務会計研究</u> の～コーポレート・ガバナンス、財務報告および税制の統合的分析 (論)

筆者は、1及び5のセッションを聴講した。1の報告は、白門OBで現在国際会計士連盟倫理基準審議会（IESBA）ボードメンバーの加藤厚先生がパネリストを務め、ますます厳しくなる国際倫理基準とわが国の対応策等に関する議論が展開された。5の報告は、2011年に発覚した一連の会計不祥事や、いわゆる不正リスク対応基準の制定を背景として設置された、日本監査研究学会・課題別研究部会「監査人の職業的懐疑心」（部会長：増田宏一・日本公認会計士協会元会長）における研究成果を元に、本研究大会においてより実践の見地からの議論を深めようとするものであり、部会メンバーに加えて、白門OBの福田真也先生もパネリストとして参画した。職業的懐疑心とリスクアプローチの監査、保持・発揮のための対応策、虚偽記載との関係、海外の動向についての議論が繰り返された。監査研究学会との関連においては、第33回広島研究大会においても、白門OBの藤沼亜起先生が部会長を務める「公認会計士の職業倫理研究」部会の成果に基づくセッション、「公認会計士の職業倫理高揚への取り組み」が行われている。筆者は幸いにも、両部会において委員の末席を汚す栄誉を得たが（増田部会においては幹事兼任）、こうした学士合同の取り組みも着実に進行していると言えよう。

・記念講演

数学者・作家・お茶の水大学名誉教授の藤原正彦氏が「国家の品格」～世界に誇る日本の倫理～と題する講演を行った。藤原氏は、日本が取り組んできたこの10数年の改革には失われたものも多く、日本型市場主義から米国型への転換は、「従業員の忠誠心」、「終身雇用」といった経営的な側面のみならず、日本人の美德である武士道の精神に行脚する高い道德・倫理感をも欠かせしめるものであり、今一度、この日本人の心を取戻し、向上させていかなければならないと説いた。また、母国語である日本語教育の重要性を指摘し、「このままでは日本から国際人がいなくなる」と警鐘を鳴らした。

・懇親会

大会終了後、開催された懇親会も、開催地の利便性や監査法人の動員等も手伝ってか、大変な賑わいを見せた。以前の職場や会計士補時代の友人達と旧交を温めることが出来た。学生チアダンス等の余興も華を添えた。その後、会場を移動して公認会計士白門会主催の懇親会が行われたが、全国から参加した白門OBのみならず、研究大会で登壇した、増田宏一先生、青山学院大学大学院教授の八田進二先生、橋本尚先生もゲストとして駆けつけられ、こちらも盛況であった。

「本学出身OB・OGによる監査法人説明会・懇談会」

去る平成26年8月27日に、中央大学駿河台記念館において、公認会計士試験の受験生（本学在学学生及び卒業生）を対象に「本学出身OB・OGによる監査法人説明会」を開催しました。

本就職説明会は、中央大学経理研究所と当公認

公認会計士白門会
幹事長

成田智弘



会計士白門会の共催により、毎年開催しています。今年度も70名を超える公認会計士試験の受験生が参加し、また、大手5監査法人のOB・OGの参加を得て、熱気溢れる進路相談会となりました。

(当日のスケジュール)

10時00分～10時15分：公認会計士白門会伊藤大義会長のご挨拶
10時15分～11時45分：有限責任あずさ監査法人
11時45分～13時15分：太陽 ASG 有限責任監査法人（現、太陽有限責任監査法人）
14時00分～15時30分：有限責任監査法人トーマツ
15時30分～17時00分：新日本有限責任監査法人
17時00分～18時30分：あらた監査法人

今年は、これまでの公認会計士試験合格者の就職難が一転し、買い手市場から売り手市場へと大きく変わりました。また、上記のようなタイトなスケジュールにも関わらず、多くの公認会計士試験の受験生が、監査法人の具体的な業務内容、研修制度、人事制度をはじめ、それぞれの監査法人の特色等について熱心に尋ねる姿は変わりなく、また、OB・OGならではの説明やアドバイス、そして時には叱咤激励がなされ、例年通り、活気のある質疑応答が交わされました。

本説明会は、多くの公認会計士を輩出している本学ならではの監査法人説明会であり、現役の公認会計士として、監査に、コンサルティングにと活躍している先輩公認会計士の生の声を聞ける貴重な機会となっています。今後も、後輩の支援の

ために継続していくことが必要と考えます。

残念なことは、就職が決まった後、業界をリードする諸先輩方とより親しく、本音の話を聞くことのできる公認会計士白門会の「賀詞交歓会及び研修会」に公認会計士試験合格者を無料招待しても出席してくれる公認会計士試験合格者が少ないことです。中央大学は、業界をリードする公認会計士を数多く輩出しています。そのような業界の大先輩と先輩後輩として忌憚なく話せる大きなチャンスを自ら逃していることはもったいないことです。

今後は、積極的に、公認会計士白門会に参加してくれる後輩が増えることを期待したいと思います。



十月会ゴルフ、白門ゴルフ大会

公認会計士白門会
幹事
柴 毅



ゴルフ担当幹事の柴でございます。本年度も十月会ゴルフ、白門ゴルフ大会が開催され、当会の活動状況について報告いたします。

まずは、十月会ですが、2014年10月4日、軽井沢プリンス72西コース（ゴールド、ブルー）にて開催されました。参加者は77名、参加校は9校と、例年に比べやや小規模の大会となりました。軽井沢は、東京駅から新幹線で1時間とさほど遠くはないのですが、感覚として遠い、また、10月だと寒いのでは、といったことで参加者が減少しているのかなと感じています。当校からも8名の参加（参加者は、伊藤会長、宮内元会長、柏寄監事、小池氏、佐藤氏、黒田氏、山田氏、柴）ということで、例年の半分ぐらいの人数になっておりますので、次回以降、多くの方に奮って参加していただきたいと思っております。

今回、運営上の反省点として私が感じていることは、

- ① 軽井沢という場所については、どうも参加者が集まり辛い。
- ② 今回、幹事校の意向で旅行代理店を関与させましたが、費用に見合う効果が挙がってはいなかった。

といったことがあげられます。当校世話人補佐（世話人は当会会長、私が補佐です）としてこれらについて、世話人会にて改善を促していきたいと思っております。

さて、成績ですが、昨年は2位という大活躍でしたが、今回は6位という残念な結果に終わっております。優勝早稲田、準優勝慶応、3位法政と

いった結果です。優勝の早稲田とはグロスで43打差あり、これは上位4名の合計ですので、そこで一人当たり10打以上差がついています。また、今回個人戦で顕著な事象が起きております。個人優勝者（これはハンデ戦です）は、元東大ゴルフ部、ベスグロ獲得者（ゴールドコース、ブルーコースの2名）は、それぞれ元慶応大学ゴルフ部、早稲田大学ゴルフ部、となっており、各校若い体育会ゴルフ部出身の会計士（試験合格者含む）が参加し、活躍しているということです。当校においても、ゴルフ部との関係を強化し、是非ゴルフ部出身の会計士を誕生させたいところです。

ゴルフ部との関係でいいますと、白門ゴルフ大会は学員会がゴルフ部の協力を得て開催されています。今回は2014年11月17日に茨城ゴルフ倶楽部にて開催されました。総勢130名ほどの参加があり、こちらは例年通り大規模な大会となりました。当会からの参加は、会計士白門会チームとして4名（伊藤会長、柏寄監事、佐野氏、柴）、他の白門会チームで1名（佐藤氏）の5名が参加しました。成績ですが、残念ながら、成績も振るわず、かつ当大会は景品も良く、飛び賞も充実していることから、ほぼ3名に1名は何らかの賞をもらえるという状況でしたが、全く掠ることなく終えてしまいました。

当会からの参加者は、年々減少傾向にあります。このように非常に賞の充実したありがたい大会ですし、ゴルフ部との関係強化にもつながりますので、次回以降、多くの方に奮って参加していただきたいと思っております。

公認会計士試験合格祝賀会に参加して

公認会計士白門会
会計監事

柏 壽 周 弘



平成 26 年度の公認会計士試験の合格発表は、11 月 14 日（金）に合格者 1,102 名と発表されました。当年度は短答式受験者数が 10,712 人で合格率は 10.1%でした。

その合格祝賀会が中央大学商学部主催で東京ガーデンパレスホテルにおいて盛大に執り行われました。本学出身者の合格者数は当日現在 73 名で、昨年度以上の合格者数となっており、その内 33 名が出席されました。当会からも伊藤会長はじめ約 20 名の会員が招待され参加しました。

初めに 11 月に総長・学長になられたばかりの酒井正三郎氏からご挨拶がありました。合格者中 34 名が在大学生であり、その中で 1 年次在大学生がいることは初めてではないかとのことでした。聞くところによると彼は岐阜商業の出身で、同校では 2 年生から会計士試験の勉強をしているとのことでした。私の記憶では、会計士試験制度が変わった頃から同校の卒業生が増加しており、それも速く合格している話だったと思います。

総長・学長からはグローバル・スペシャリストとして活躍してほしい。そのためには 3 つの D（ディー）すなわち diversity（多様性）、dialogue（対話）、dignity（高潔さ）が重要とのことでした。まさしく、我々公認会計士にとっても重要な Word だと思えます。また、回りの人たちのサポートを受けたことを忘れないで、これからも精進してほしい。まだ、スタート台に立っただけであり、

今の段階で何をすべきか人生設計をして欲しいと励ましのお言葉がありました。

来賓祝辞としては、当会幹事の柴毅日本公認会計士協会常務理事から、現場経験を踏まえ監査論のどこの業務を行っているか考えながらバウチング・マシーンにならないよう仕事に取り組んでほしいと祝辞を述べられました。

乾杯は当会会長の伊藤大義氏が高らかに乾杯のご発声をされ、歓談に入りました。

今年は、受験者数も合格者数も一時の 3 分の 1 程度に減少してきているため売り手市場となっており、3 法人すべてから内定をもらったうえで気に入った法人を選択できた合格者、最初からどこの法人と決め打ちの合格者などかつての就職難の時代は遠く過ぎ去り、合格の嬉しさ、そして就職が決まっている安堵感からか明るい雰囲気の中での祝賀会となりました。そういう意味では、良い年であったと思いますが、受験者数が大幅に減少していることは当業界にとってはゆゆしき問題であると思われれます。

そして、合格者に河合久商学部長から記念品の名刺入れが合格者代表の石川貴悠君・商学部 3 年生に渡され、同君からお礼のご挨拶がありました。そして、皆で校歌を 3 番まで斉唱し、お開きは上野清貴経理研究所長・商学部教授に締めていただき、和やかなうちに散会となりました。

また、来年度は本年度以上の合格者数となるよう祈念いたしております。



合格体験記



商学部会計学科1年
伊藤 凌

この度、平成二十六年度公認会計士試験において、合格という結果を得ることができ、大変嬉しく思っております。

本稿では、私が公認会計士試験に合格するまでの道のり及びその後の将来への展望について述べさせていただきます。

私は「公認会計士試験に必ず早期に合格し、残りの期間で自分に付加価値をつける」という目標を持って中央大学に入学しました。

そこで、私は大学に併設されている経理研究所に入所しました。経理研究所では、同じ志を持つ多くの先輩や同期の仲間巡りに巡り会えたことで、まるで熱く燃える部活動のような雰囲気での勉強ができ、苦しさを感じたことはありませんでした。その甲斐あって、私は五月にマークシート形式の短答式試験に合格することができました。

公認会計士試験は短答式試験に合格し、その後の論述形式の論文式試験に合格しなければなりません。私の場合、僅か三ヶ月でその対策をしなければならず、はじめは本当に可能なのか不安でした。そこで、私は短期的な目標として一週間で区切りとし、その中で自分が成し遂げたいこと、そのためにすべきこと、そして実際の成果を評価し、その後どうしていくかを管理するPDCAサイクルを毎週記録していました。自分で計画を立てて行動することで、勉強に義務感はなくなり、モチベーションを高い水準で維持することができ

ます。また、早い段階で修正点が見つかり、それらを改善していくことで着実に合格への道を進んでいることにもなります。どんなに難しい試験でも小さなことを積み重ねていけば自然と合格という結果が見えてくるのだと私は信じています。

合格後の今、私の次の目標は前述した通り、付加価値をつけることです。試験に合格することがゴールではありません。私はまだスタートラインに立ったばかりなのです。残り三年の大学生活を有効に使い、社会に必要とされる公認会計士になりたいです。恥ずかしながら、私は高校生の頃から現在まで勉強以外の何かあまり触れてこなかったため、大変狭い世界で生きています。そこで、今後は海外留学など自分の見聞を広める活動をしていきたいと思っています。

最後になりましたが、私は大学入学時から現在までずっと変わらず持ち続けている想いがあります。それは、周りの環境に対する感謝の気持ちです。これまでの受験生活を様々な面で手厚くサポートしていただいた方々がたくさんいらっしゃいます。私の精神的な支えとなってくれた友人や先輩、学習面で直接的なご支援をいただいた経理研究所関係者の皆様方、そして何より、母子家庭で家計が厳しい状況にありながら、私の夢のために大学に送り出してくれた家族のおかげです。今後もさらなる成長のため、日々努力します。

合格体験記

商学部会計学科 2009 年卒業
村上雄太



はじめに、この場をお借りしてお世話になった先生方、ゼミやクラスの仲間に御礼申し上げます。

私が公認会計士という職業を知ったのは高校生のときでした。私は中央大学附属高校からの内部進学であったため、高校生のときに中央大学の各学部の授業や中央大学出身の公認会計士、弁護士等の先輩方の講演会等が受講できる環境がありました。その中でも、のちに私のゼミの指導教授となる木下徳明先生や他の商学部の先生の講義の中で公認会計士の仕事は監査だけに限らず、税務、コンサルティング等の多岐にわたり、国内のみならず海外でも活躍できるというフィールドの広さを知り、公認会計士という職業の魅力に惹かれました。ここで、私は大学に入ったら、公認会計士試験の勉強を始めようと決意し、商学部会計学科へ進学しました。

公認会計士試験の試験科目については事前に自分である程度調べていましたが、いざ始めてみるとそのボリュームの多さと難易度の高さに何度もやめようかと思いました。私は卒業1年目に短答式試験に合格するも、短答式の免除が切れるいわゆる三振をしてしまいました。このときはもう、公認会計士になることはやめて会計とは全く違う仕事でもして生きていこうかなと思っていました。しかし、木下ゼミの先輩で私のように三振を経験したのちに合格された方から連絡をもらい、飲み連れて行ってもらいました。そこで先輩

から「公認会計士になることを諦めて一生後悔するのだったら続けたほうがいい。」とのアドバイスをもらいました。私の中には会計と全く関係ない仕事をするのも選択肢にありましたが、会計以外にこれといった資格もスキルも全くありませんし、そもそも公認会計士の仕事以外には全く興味がないという自分の気持ちに気づきました。ここで諦めれば一生後悔することは目に見えているし、ラストチャンスでもう一回だけ公認会計士試験に挑戦することにしました。周囲の人にはまだやるの?と内心呆れて人もいたかもしれません。しかし、私は短答式試験の免除が無くなったことで、逆に吹っ切れて公認会計士試験の勉強を始めたころの気持ちを取り戻せたような気がしました。その後の試験勉強では試験対策予備校のカリキュラムに合わせて勉強していくことは確かに体力的にはきつかったですが、気持ちの面では毎日やる気に満ち溢れていましたし、定期的に行われる答案練習でも気持ちで負けずに食らいついて満足する結果を残せていたと思います。

私は今年の中央大学の公認会計士試験合格者の中では、相当遠回りをした人間だと思います。しかし、その期間があった分、公認会計士試験に合格したあとにどういった仕事をしていきたいかを考え、温められたとプラスに捉えています。

最後に、この合格体験記を見られて中央大学の受験生が一人でも多く合格されれば幸いです。

合格体験記



商学部会計学科4年 道古麻由

経理研究所に入るきっかけは本当に人それぞれです。入学後、友人に誘われて何気なく勉強を始めた人も実はたくさんいます。私の場合、経理研究所に入るために中央大学に入学しました。高校時代、専門性の高さに魅力を感じ公認会計士を目指した私は、地元の国立大学と専門学校とのダブルスクールを考えていました。しかし現役合格に強い経理研究所の存在を知り、悩んだ末、中央大学商学部会計学科フレックス plus1 コースを選択し上京しました。在学中に合格できた今、間違っただけではなかったと実感し、一安心しています。

私の受験生活を支えたのは「とことん勉強に打ち込める環境」「尊敬できる仲間との出会い」「親身に相談に乗ってくださる先生方の存在」でした。

私は決して器用なタイプではないので、現役合格のためには試験勉強にとことん時間を費やす必要がありました。8時過ぎから23時前まで大学構内の自習室が利用できるという他ではありえない環境は強い味方になりました。さらに、会計学科フレックス Plus1 コースではより試験に直結する授業を選択できたので、学部の勉強も負担に感じませんでした。

このような環境のなかで、すべての受講生がとんとん拍子で合格するように思われるかもしれま

せんが、途中であきらめる人ももちろんいます。私もはじめは成績がなかなか伸びず、日商簿記1級も、短答式試験にも合格できず、親しい友人もやめてしまって…と、つらい時期がありました。しかし、自分と同学年の会計士試験合格者や意識の高い仲間と親しくなったことがきっかけで「身近な友人ができたのだから私にもきっとできる!みんなの応援にこたえたい!一緒に合格したい!」という思いが生まれ、高いモチベーションを維持することができました。

勉強方法の面では専任講師の先生方からいつもの確かなアドバイスをいただきました。経理研究所の講師陣は一人一人にじっくり向き合ってくださいるので、受講生にとってプライベートな相談もできるカウンセラーのような存在です。くよくよしやすい私は毎週のように先生と1対1で話し込みました。いつも献身的に対応して下さり、本当に感謝しています。

入学当初、経理研究所は私にとって公認会計士試験に合格するための1つの選択肢でしかありませんでした。しかし合格を果たした今は、ここで出会った人々、過ごした日々の思い出が、きっと自分の強みになると感じています。

平成 26 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位 (1)	慶応大学	120	(121)	6	(-)	立命館大学	29	(-)
2 (2)	早稲田大学	94	(93)	6	(-)	関西大学	29	(-)
3 (3)	中央大学	87	(80)	8	(8)	関西学院大学	28	(32)
4 (4)	明治大学	69	(68)	9	(-)	法政大学	27	(-)
5 (5)	同志社大学	43	(49)	10	(6)	神戸大学	27	(36)

() は前年順位及び人数

他大学の人数は日本公認会計士協会提供データを参考に当会にて調査 (2015 年 1 月 5 日現在判明数)

各大学数字は、学部卒業および在学者のみ (大学院を除く)

2014 年公認会計士試験合格者 (87 名)

氏 名	学 部 等	在・大学卒	氏 名	学 部 等	在・大学卒	氏 名	学 部 等	在・大学卒
浅見 佳明	商学部	5年在学中	小嶋 隆仁	商学部	6年在学中	萩原 祐基	商学部	2004卒業
蘆田祥太郎	商学部	2013卒業	小林 大倫	商学部	2014卒業	瀨田 崇史	商学部	2014卒業
安藤 唯	商学部	4年在学中	小原あゆみ	商学部	4年在学中	林 孝卓	商学部	4年在学中
飯沼 卓也	商学部	2013卒業	小松 瑞季	商学部	2011卒業	原尾 和樹	経済学部	5年在学中
石井 俊己	商学部	2011卒業	齋藤 眞伍	経済学部	5年在学中	日野 陽一	商学部	2007卒業
石川 貴悠	商学部	3年在学中	齋藤 光	商学部	2014卒業	廣川 輝雄	商学部	2014卒業
石田 悠	商学部	2012卒業	坂本 裕之	商学部	5年在学中	廣瀬 満弓	商学部	2014卒業
板垣 育太	法学部	2014卒業	坂本 匡世	商学部	2012卒業	福本 良佑	商学部	2年在学中
板橋 由尚	理工学部	2012卒業	三部 夕貴	商学部	6年在学中	藤田 梓馬	商学部	3年在学中
伊藤 凌	商学部	1年在学中	重田沙由梨	商学部	3年在学中	前原 直道	商学部	2014卒業
稲葉 一寿	経済学部	2007卒業	柴田 昭太	商学部	4年在学中	町田 瞭	商学部	4年在学中
岩田 和也	経済学部	2年在学中	柴原 浩毅	経済学部	5年在学中	松本 誠司	経済学部	6年在学中
内田 遼介	商学部	5年在学中	杉山 勝俊	商学部	2011卒業	水谷 尚睦	商学部	2年在学中
海老根真国	商学部	4年在学中	鈴木 稜平	商学部	5年在学中	三輪田 航	経済学部	3年在学中
遠藤 彩香	法学部	3年在学中	須藤 康英	商学部	2011卒業	村岡 篤	商学部	3年在学中
緒形 恵一	法学部	2012卒業	後原 雅彦	商学部	2014卒業	村上 大樹	商学部	4年在学中
小川 慶太	商学部	2014卒業	瀬戸山直人	経済学部	2009卒業	村上 雄太	商学部	2009卒業
奥間裕美子	経済学部	2014卒業	高梨 幸良	経済学部	2005卒業	村瀬 達彦	商学部	2年在学中
遅澤 祥平	経済学部	5年在学中	高橋 一弘	経済学部	5年在学中	森村 洋介	経済学部	2012卒業
越智 信仁	法学部	1984卒業	田名網仁晃	商学部	2006卒業	矢野 愛城	経済学部	2012卒業
小幡 洋正	商学部	2014卒業	知野 真明	商学部	2003卒業	山辺みのり	商学部	2011卒業
柿 文也	商学部	2010卒業	辻村 拓也	商学部	2013卒業	山村 勇馬	経済学部	5年在学中
柿澤 佑樹	商学部	2014卒業	堤 雅夫	商学部	2009卒業	山本ちひろ	商学部	2013卒業
梶野 雄輔	商学部	2009卒業	手塚 俊弥	商学部	2009卒業	山本 花子	法学部	2012卒業
加藤 大貴	商学部	4年在学中	寺田 朋弘	商学部	4年在学中	吉川 明宏	法学部	2014卒業
金永 祐史	経済学部	2013卒業	道古 麻由	商学部	4年在学中	吉田 裕斗	商学部	3年在学中
河栗 悠介	商学部	2013卒業	床井 宏行	経済学部	2006卒業	吉村 浩佑	商学部	2009卒業
川崎 博康	文学部	2008卒業	鳥海 翔太	商学部	2010卒業	和田 康兵	商学部	5年在学中
川名 健太	法学部	2012卒業	新田 一馬	経済学部	2012卒業	渡邊蔵之介	法学部	2013卒業

◆公認会計士白門会役員◆

会 長	伊藤 大義	経済学部・昭和46年卒	幹 事	梶山 嘉洋	商学部・平成15年卒
幹 事 長	成田 智弘	商学部・昭和59年卒		中原 國尋	大学院商学研究科・平成13年修了
幹 事	青木 幹雄	商学部・平成13年卒		畠中 隆徳	商学部・平成10年卒
	石野 研司	商学部・平成4年卒		降旗 京二	商学部・平成2年卒
	加藤 暁光	商学部・平成2年卒		三宅 博人	経済学部・平成元年卒
	河合 明弘	商学部・平成3年卒		吉井 敏明	商学部・平成3年卒
	岸田 靖	商学部・昭和61年卒		若山巖太郎	商学部・平成12年卒
	郡司 昌恭	商学部・平成12年卒	会計監事	常山 邦雄	商学部・昭和46年卒
	柴 毅	商学部・昭和58年卒		柏寄 周弘	商学部・昭和53年卒
	白髭 英一	商学部・平成12年卒			

編集後記

岸 田 靖

IFRSを採用する企業が着実に増加する中、昨年12月に公表されたコーポレートガバナンスコード原案を受け、特に上場会社を中心にコーポレートガバナンスに対する再検討が始まっており、例年にも増して対応に飛び回っておられる会員の皆様も多いのではないかと思います。世界に目を向ければ、一般的といわれる観光地においてもテロが発生し、また、飛行機墜落事故も絶えないなど、中々落ち着く様子が見られません。

さて、そんな中、今回の「絆」は第21号の発行となります。メールやSNSなどの発達もあり、絆のような「紙」を利用した媒体を利用しなくても、最新の情報を入手しあるいは意見交換できる環境も出来つつありますが、研修会や懇親会、ゴルフといった会員活動を通して研鑽や親睦も含め、中央大学の同窓生として心温かい交流が保たれるよう、幹事としてすこしでもお役に立てればと考える次第です。

第21号ですが、巻頭においては新しく経理研究所所長に就任された上野清貴先生から「経理研究所所長就任に当たって」との題目でご寄稿頂きました。

また、当会元会長で一昨年12月に証券取引等監視委員会委員を退任された福田眞也先生から「証券取引等監視委員会の6年5か月を振り返って」との題目で監視委員会の業務や公認会計士の活躍等についてご執筆頂きました。

大変残念なことに、本会だけでなく母校中央大学の発展に多大なる貢献をされた故川島正夫先生の在りし日のご活躍や思い出について、本会会員で日本

公認会計士協会元副会長の黒田克司先生に追悼のご寄稿を頂きました。故川島先生には謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昨年度は4年に1回のインターバルで開催される世界会計士会議がローマにて開かれました。その模様を本会会員で日本公認会計士協会常務理事でもある北方宏樹先生からご寄稿頂きました。日本とは異なる文化の地において、色々と思い出に残る出来事もあったようです。参加できなかった会員の皆様にとっても興味深い内容となっております。

昨年開催された第35回日本公認会計士協会研究大会東京大会2014については三宅幹事に、また、恒例となりつつある「進路相談会について」については成田幹事長に執筆頂きました。大学主催の公認会計士合格祝賀会の模様については柏寄監事にご寄稿頂きました。

恒例となりましたCPAゴルフ十月会及び白門ゴルフ大会の模様については柴幹事に執筆頂きました。今年も少々参加者が少なかった様子ですが、是非会員の皆様の積極的なご参加をお願いします。

会計士試験合格者の合格体験記は当年度の会計士試験合格者の中から1年生で合格した伊藤さんをはじめ村上さんと道古さんにご寄稿頂きました。

幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となり、さらに公認会計士白門会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので、何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公認会計士白門会会報 No.21

平成27年4月30日発行

発行人 公認会計士白門会会長

伊 藤 大 義

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5
中央大学駿河台記念館4階
中央大学経理研究所気付